



## ふるプロってなあに！ 第3号（全5回）

## これまで成果はあったの？

令和3年度は、ふるプロ会議参加メンバーの中で、「ふるさと学習」についての現状や1年間の実践などを交流しました。

どの学校もふるさと学習（探究活動）にとても力を入れている、ということがわかりました。それは想像以上でした！



県立学校の取組については、普段 新聞で目にするもの以外はあまり知りませんでした。県立学校が社会とのつながりを強く意識して実践しておられることがよく分かりました。（小学校長）

数年前に、本校の発表会への参加依頼のために、いくつかの学校を回って宣伝をしましたが、全く感触なしでした。

ここ数年の間に、中学校と高校で探究学習がすごく熱心になされるようになったこと、驚きました。（県立学校長）



## 令和4年度の成果は？

美浜東小学校 瓜生小学校 熊川小学校 本郷小学校 高浜小学校

令和4年度は、ふるプロ研究推進校の5校が中心となって「ふるさと学習」の研究実践をしました。その成果は、令和4年度嶺南教育実践フォーラム(R5.2.10)で報告されました。いくつか紹介します。

## 成果1

## ふるさと教育主任の新設

本郷小学校では、研究主任とは別に、ふるさと教育主任を新設し、ふるさと学習の充実を図りました。詳しくは、本郷小学校 発表動画<sup>※</sup>をご覧ください。



ふるさと教育主任を設けて、学校全体の学びをコーディネートしていたのが、参考になりました。ふるさと教育主任の設置の必要性が、職員の協議から出てきたのがすごいです。

## 成果2

## 「夢の実現を阻む要素が問いである」

令和4年度のテーマは、「自ら『問い』をつくる力」でした。

夢を実現しよう（やりたいことをやろう）とすると必ずそれを阻む課題が生まれる。その課題こそが、子ども自らの「問い」となるのです。詳しくは、瓜生小学校 発表動画<sup>※</sup>をご覧ください。

子どもたちのやりたいことを阻む課題こそが、児童自らの問いになり、当事者意識が生まれるんですね。まさに、子どもが自走する最大のモチベーションになるのですね。



児童が、課題追究の中で、自己の活動をモニタリングできるようにするのが、とても参考になりました。

※ 各校の研究発表動画の URL は、令和5年度嶺南地区校長研修会(6/1)・教頭研修会(7/4)の添付資料をご覧ください。または嶺南教育事務所にお問い合わせください。

## 成果3

## 「自ら『問い』をつくる」仕掛け

嶺南教育事務所員で組織されたふるプロ実行委員会。そのうちの1つのチームが、「自ら『問い』をつくる」仕掛けを探り、類別しました。

## 体験型

農作業や接客、販売、製作などの体験場面では、成果を出そうとするときにいろいろな課題が生まれる。

たくさん売るにはどうすればいいかなあ。

## SOS型

ごみ問題や地球温暖化、空き家問題など、地域の SOS はそのまま課題となる。

ごみを活かす方法って何かないかなあ。

## 継承型

先輩が取り組んできた探究活動を受け継ぐと、成果とともに課題も引き継がれ、それが自分のものとなる。

先輩が解決できなかった課題をどう解決しようかな。

## 連携型

学校同士で、あるいは外部の団体と連携するとき、うまく協力していくための課題が生まれる。

小学生の協力を得るために効果的な方法は何か。

## 情報受信型

講義や語り部の話を聞いているときに課題が生まれる。

なぜそんな大変な状況なの？どうしていけばいいの？